

事前課題

「ビビッとシート」「これから Do シート」の記入要領



日頃の活動に「ビビッと！」

“あるべき姿” に向かって「Do！」



PDCA サイクルで事業展開を行う意義は理解しているけれど、なかなか忙しくて…、さてどこから始めようかと悩み、困っているうちに後回しになってしまうことはありませんか。

だからといって方向（目的；あるべき姿）を見失ったまま事業や活動を続けているうちにPDCA サイクルは頓挫し、Do-Do-Do の形に慣れっこになってしまいがちです。

あるべき姿（目的）は、データを基本にした地域診断から導く場合もあれば、政策や法的根拠に基づき示される場合もあります。

そして、課題も地域診断結果から科学的に導くこともあれば、「あれっ、最近・・・」「このプログラム、住民ニーズとズレてしまっている？」など、日々の保健師活動の「勘」が働きビビッとくる場合もあります。実践者は、後者が多いのではないのでしょうか。

大事なことは、その「勘」を打ち消すことなく、課題として「言語化」プロセスを経る覚悟と勇気です。それが、課題が起こりにくい地域社会を、そして組織へと導く一歩です。「既定路線に従って動く」だけではなく、実践家として自らが自律的に働きかけて、住民にとって意義ある事業に「改善」していくことにチャレンジしてみませんか。

【ワークシート（資料）説明】

◆日頃の活動「ビビッとシート」

第1ステップ 気づきや違和感を素直な言葉で表しましょう。専門用語の使用あるいはかっこよく整えることを意識しすぎることは必要ありません。

第2ステップ 気づきの可視化。「気づき」を、誰かと賛同し合うには、どのようなデータがあるとよいでしょうか（現状データ）。そしていくつか並べて考察し、課題を出します。

第3ステップ わたしをモヤモヤさせていた気づきの答えは、なんでしたか。

◆日頃の活動「これからDoシート」

第4ステップ まず、今回の対象はだれですか。その対象者は地域にどのくらいいますか。

第5ステップ 対象者は、どのような支援（サービス）をどの程度受けてますか。その活動の満足度はいかがでしょう。効果はありますか

第6ステップ 対象者のあるべき姿とは？ 現状データとは？そのギャップが課題です。

第7ステップ ギャップを見極め、実効性のあることから順にあるべき姿に近づける。

